

## 大雪山系トムラウシ山 南沼野営地調査登山報告

### 1. はじめに

北海道の山岳環境問題（その中でも特に山のトイレ問題）については、この数年多くの人達の関心を集めるようになってきた。昨年、「第2回山のトイレを考えるフォーラム」を主催した「山のトイレを考える会」（以下「山のトイレ考」と略称）では、北海道での象徴的問題の場所としてトムラウシ山・南沼野営地での問題解決をめざしているが、最近の実態を確認、体験すべく平成13年7月下旬に調査登山を実施した。

なお、希望としては7月下旬から8月上旬にかけて2週間程度継続した調査を考えたが、現在の「山のトイレ考」の力量から4日間(7/28～7/31)の滞在を予定した。

### 2. 沼ノ原～忠別岳避難小屋～ヒサゴ沼避難小屋のトイレ状況

トムラウシ南沼調査登山の為にルートとして調査ポイントの一部は、沼ノ原(クチャンハツリ)より入山し、その途中にある「沼ノ原野営地」「忠別岳避難小屋」「ヒサゴ沼避難小屋」のトイレ状況も確認した。

- ・「沼ノ原野営地」である大沼はこの年も7月下旬では満水であり、仮に山岳トイレを設置検討するならば場所は、石狩岳方面との分岐点付近しかないと確認した。
- ・沼ノ原～五色ヶ原～五色岳～化雲岳～日本庭園に至る登山道には木道が敷設されていた(環境省の補助事業)。いろいろな意見はあるが、登山者増加による踏み跡登山道拡幅防止の効果は認められた。ただ、雨の日には、木道は滑り易い。危険防止の観点から、ニュージ-ラット・ミッドフォートトラックで採用されているような金網張り付けタイプが望まれる。縦走路から忠別避難小屋に至る登山道での浸食が気になった。
- ・「忠別岳避難小屋」「ヒサゴ沼避難小屋」のトイレは、いずれも貯留浸透式のトイレであるが、きれいに利用されていた(臭いは強いが...)。ただ、「忠別岳避難小屋」のトイレは「白雲岳避難小屋」のトイレと共に、内容物を昨年度(H12年度)に15年振りに約500万円の費用をかけてヘリで搬出(北海道自然環境課)された。「ヒサゴ沼避難小屋」のトイレ内容物はこの調査後(H13年9月)、20年振りに約800万円かけてヘリ搬出された。いずれも搬出時の問題として、汚物以外に投げ入れられたゴミ類の量が問題になった。これを防止協力を依頼する掲示(理由説明掲示)がトイレに表示されていないのが気になった。(このままでは同じ轍を踏む)

### 3. 南沼野営指定地での調査結果による知見

南沼野営指定地での宿泊登山者のトイレに関する意識調査等は添付のアンケート集計表を参照頂きたい。7月28日(土)、29日(日)の二日間のアンケートに答えて頂いた方は70名(実際の宿泊者はもっと多い)。調査は30日(月)も行う予定であったが荒天により予定短縮して下山した。30日の宿泊者は停滞した2ポイントとその日湯原温泉から上がっていた1ポイントの3張りのシートだけと想定された。(荒天だと極端に野営人数が減ると思われ

る)。7/29(日)のテント泊者の状況をピックアップして述べる。

「山のトイレ考」の調査メンバーの2名が7/29も残った。他の者は7/28テント泊にて下山。

1) 7/29(日)の南沼野営指定地テント泊者の状況(メンバー構成と出身地と行程別)

- ・単独行... 4張り(4人); 青森(沼ノ原~トムラ温泉)、宮崎(層雲峡~トムラ温泉)  
東京(旭岳~トムラ温泉)、千葉(トムラ温泉~層雲峡)
- ・2人メンバー... 4張り(8人); 道内(トムラ温泉~トムラ温泉)、岩手(トムラ温泉~トムラ温泉)  
神奈川(トムラ温泉~層雲峡)、神奈川(沼ノ原~トムラ温泉)
- ・3人メンバー... 2張り(6人); 道内(トムラ温泉~トムラ温泉)、埼玉(旭岳~トムラ温泉)
- ・5人メンバー... 1張り(5人); 青森(沼ノ原~トムラ温泉)
- ・29人メンバー... 5張り(29人); 大阪(トムラ温泉~層雲峡)

合計でテント16張り総計52人(うち大学WV部29人5張り含む)。

前日の7/28日(土)はテント28張り設営があった。トムラウシ山は思った以上に道外からの登山者が多かった(約60%)。また縦走者も多い。十勝方面へ相互の縦走ある。

2) 7/29(日)の南沼野営指定地テント泊者の携帯トイレに対する傾向

7/29野営宿泊者の内、携帯トイレ持参者は、調査担当した私達・神奈川2人メンバーのみであった。過去に使用した経験者は3人メンバー・道内山岳会の1組だった。層雲峡、旭岳(シタセツター、トムラウシ温泉・東大雪荘にて携帯トイレ希望者へ配布がなされている事を知っていたのは道内山岳会3人メンバーのみだった。(私も東大雪荘での配布は下山して知った)。大雪山系登山口での携帯トイレ配布の広報が、いかに現状のままでは不徹底かを実感した。

4. まとめて代えての私見

2002年1月号にて今年が国際山岳年にあたりと特集している山岳雑誌「山と渓谷」によれば、読者の中の日本100名山完登者(アンケート回答者)では一番好きな山は「トムラウシ山」が最も多く、もう一度登りたい山も「トムラウシ山」がトップであると紹介している。

このように全国の多くの登山者に愛されるトムラウシ山の山岳トイレ問題をなんとか改善、解決したいと多くの人が思っている。南沼調査を踏まえ個人的感想を述べる。

1) 筆者自身は「トムラウシの山岳トイレ問題」が「携帯トイレ配布」で解決できるとは思っていない。しかし北海道にて来年度も「携帯トイレ配布」を進めるのであれば、Web広報をもっと徹底する必要がある。上川支庁(オホオホシ、登山情報Web)十勝支庁(オホオホシ)、道自然環境課(オホオホシ)、大雪山国立公園連絡協議会(オホオホシ)。「携帯トイレ」についての方針、主張をしっかりと表明、掲示願いたい。

2) 「携帯トイレ使用」を進めるならば、主要登山口に回収箱の設置を北海道が主導して実施して欲しい。利用率向上には欠かせない配布と不可分な一連のシステムである。

3) 北海道がトムラウシ南沼に「山岳トイレ」を建設予定無くとも内容検討だけは実現を望む。

平成14年1月25日「山のトイレを考える会」会員：小枝正人